

第100回二科展巡回展（京都展）

●絵画部・彫刻部

京都展は会員の作品と京都、滋賀の出品者、会友の作品による展示です。2015年11月24日（火）～12月6日（日）の12日間、京都市美術館で開催しました。例年通り美術館の2階南側を二科展が北側を独立展、共に京都新聞社との共催です。永年この状態で続けているため展示スペースが狭く今年の場合も絵画136点、彫刻16点、デザイン71点、写真81点の合計304点と小規模な展示を余儀なくされています。入場者は6315人と前年より423名の増となりましたが、開催日が2日多いため一概には喜べません。

イベントとしてギャラリートークを11月28日（土）と12月2日（土）の2日に13時から写真、15時から絵画が行い、作品解説と共に二科展に出品するためのハウ・ツーも含め語りました。また、29日（日）にミニ・コンサートを開き弦楽三重奏の美しい響きが展覧会に華やかさを添えたようです。

受賞者は絵画で「パリ賞」の田辺美穂子をはじめ2名の「会員推挙」と多くを輩出することができ、彫刻では、吉田二郎会員が「文部科学大臣賞」を受賞するなどして、記念展に相応しい展示ができたと思っています。

新聞社との共催で開けている現在は、他の巡回展より比較的恵まれています。昨今の新聞社経営の厳しさとともに、美術館の使用料が前年より225,800円アップし721,650円となったこと、そして、102回展から2年間で、京都市美術館が改装のため使用できないなど開催が危ぶまれています。若手が育ちつつあり、ベテランの奮起が窺える現在、どのように作品の質を高める意識を共有していけるか、支部としてのアクチュアルな問題が山積しているようです。

●デザイン部

京都展の展示内容は自由テーマポスター（A部門）、特別課題「農林水産と観光との連携」をテーマにしたポスター（C部門）を中心に自由イラスト（B部門）、小作品を複数で構成される（D部門）などの全国巡回作品69点と京滋出品者作品2点の計71点の展示となりました。また今年も、ミル・ヨウコさんが「会員推挙」になりデザインの京都支部は、少数ながらも会員2名、会友1名という構成になりました。

●写真部

二科の写真部としては、63回ですが100回の記念展に参加させていただきました。2回のギャラリートークは、共に西岡伸太特別会員と木村晃造会員の二人で行い、二科展の歴史や写真の厳しさと共に入選作の講評などの後、質疑応答もあり講評裡に終わりました。

